

《担当者名》○小林健史 kobaken@hoku-i-ryo-u.ac.jp
橋本竜作 辻村礼央奈

【概要】

発達とは成熟と学習との相互作用の中で進む過程であり、発達心理学は誕生から人生を閉じる瞬間までのその法則を見いだそうとする学問である。本講義では、主に新生児期・乳幼児期、幼児期・児童期、青年期、成人期・老年期の発達の特徴、発達の理論について学び、言語聴覚士に必要な知見を深める。この科目は第2学年の「言語発達学」および「言語発達障害学」につながる科目である。

【学修目標】

<一般目標>

各発達期における障害を持つ人々の背景を理解するために、新生児期からの老年期に至るまでの定型発達のプロセスを知る。

<行動目標>

各種発達理論を説明できる。

各発達期の様相について説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	発達の規定要因について学ぶ。	小林健史
2	発達理論	ピアジェやフロイトなどの発達理論について学ぶ。	辻村礼央奈
3	発達理論	エリクソンやヴィゴツキーなどの発達理論について学ぶ。 小テストの実施。	辻村礼央奈
4	新生児期・乳児期	知覚・認知の発達について学ぶ。	小林健史
5	新生児期・乳児期	馴化・脱馴化、選好注視法などの発達研究法について学ぶ。	小林健史
6	新生児期・乳児期	運動の発達、愛着の発達について学ぶ。	小林健史
7	幼児期・児童期	遊びと社会性の発達について学ぶ。	小林健史
8	幼児期・児童期	認知機能の発達について学ぶ。 自己・他者認知の発達について学ぶ。	小林健史
9	幼児期・児童期	保育・学校教育と発達について学ぶ。 小テストの実施。	小林健史
10	青年期・成人期前期	親子関係・友人関係、自我同一性の確立、職業生活について学ぶ。	橋本竜作
11	成人期後期・老年期	家族生活、加齢、知的機能の発達、死への対応について学ぶ。 小テストの実施。	橋本竜作
12	まとめ	まとめのテストと解説を通じて、学習内容の定着を図る。	小林健史 橋本竜作 辻村礼央奈

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

まとめのテスト20% 定期試験80%

【教科書】

山田弘幸 編 言語聴覚士のための心理学 医歯薬出版株式会社 2020年

【参考書】

渡辺弥生 監修 よくわかる発達心理学 完全カラー図解 ナツメ社 2021年

【備考】

各教員の担当する単元の終わりの回に、manabaやGoogleclassroomを用いて小テストを実施し知識の定着を図る。小テストやまとめのテストで多かった誤りについては講義内で解説する。試験実施後、問い合わせがあった際には、解答の要点を掲示する。

【学修の準備】

予習は教科書の関連する章を読む（80分）。

復習は講義終了後に資料を精読し、専門用語の意味を中心に理解する（20分）。

専門用語や理論に関して、自身のことばで説明できるように教科書・参考書を参照してまとめる（60分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）言語聴覚士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

【実務経験】

小林健史、辻村礼央奈（言語聴覚士） 橋本竜作（公認心理師・臨床発達心理士）